

平成 28 年 10 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 28 年 10 月 28 日 (金) 午後 1 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 201

3 出席委員の氏名

教 育 長	仲 野 孝	教育長職務代理者	齋 藤 和 夫
委 員	黒 川 優 子	委 員	山 崎 克 弥
委 員	中 野 信 男	委 員	秦 久美子

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教 育 次 長	山 田 公 一	主 幹	長 谷 川 智
学 校 教 育 課 長	堀 克 彦	子 育 て 支 援 課 長	宮 路 豊 行
社 会 教 育 課 長	宮 路 一 規	統 括 指 導 主 事	齋 藤 暁 史

6 本委員会書記

学校教育課 太 田 和 行 他 3 名

7 傍聴人

1 名

8 会議に付議した事件

諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

(2) 教育長報告

専決処分の報告について

報告第 10 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 6 号 新規共催・後援申請について

9 その他

(1) 教育委員の視察について

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について
〈各課長が報告〉

○委員 (中野 信男)

雑誌リサイクル会の保存期間とは雑誌と新聞だけなのか。またどのような基準か。

○社会教育課長 (宮路 一規)

書籍も含まれている。内規があり、それに照らし合わせて保存期間の過ぎたものを無償配布している。図書についても同じくリサイクルを行っている。

○委員 (中野 信男)

一般的にどこの図書館でもこういったリサイクルを行っているのか。

○社会教育課長 (宮路 一規)

内規があるかどうかは不明だが、基本的には行っていると思う。

○委員 (中野 信男)

雑誌、新聞は理解できるが、図書は場所がなくなってしまうからなのか。

○社会教育課長 (宮路 一規)

大勢の方が借りるため痛みが進む。児童館や市民に無償配布をしてリサイクルを行っている。

○委員 (山崎 克弥)

市立保育園の民営化の対象となっている保育園はどこか。

○子育て支援課長 (宮路 豊行)

つばみ保育園、吉田西太田保育園の2園が対象である。

○委員 (中野 信男)

各地区でPTA交流会があるが今と昔ではPTAのあり方が変わってきていると思う。以前は嫌々ながらやっていたのが実情だと思うが、意義が見出せれば多少仕事を調

整してもやれたと思うが、自分は意義が見出せない存在だったので、未だに PTA に良いイメージがない。今は地区の PTA 交流会はどんなものになっているのか。

○次長（山田 公一）

この地区の大きな PTA の括りとなると燕・弥彦 PTA 連絡協議会があるが、いきなりこの大きなところで色々な情報交換をしようとしても難しいので、地区ごとに他の PTA の活動がどうなっているかをお互いに共有する機会にしている。また教育委員会との関係では、以前は PTA の中に教育委員会が入っていくことはあまりなかったが、教育委員会も関わっていきこうということで出席し、情報提供を行っている。そういった場を各地区に分けて開催している。年 1 回各地区でより濃厚な情報交換を行っている。

○委員（中野 信男）

少しずつ PTA のあり方を作り上げていき、方向性を見出すのが大事だと思う。この交流会は以前からあったのか。

○次長（山田 公一）

昔は旧燕市の中で開催されていたが新市となった時に弥彦まで拡大した。

○委員（中野 信男）

昔は PTA のあり方が見出せず、学校でも先生の手伝いのみで他のコミュニケーションは全くなかった。会合があっても頼みごとの会合で、先生と父兄の人間のつながりが持てなかった。今はどうなっているのか。

○委員（秦 久美子）

自分が会長の時に地区別の会合はなかったが、これに似たものはあり、各学校の役員が集まり意見交換は行っていた。当時も嫌々な人もいたが協力的な役員も大勢いた。他の学校との交流はなく、意見等を聞く機会もないので他の学校の状況を聞けるのはとても参考になると思った。年 1 回でも交流会は続けて欲しい。

○委員（中野 信男）

校長先生にもっと PTA と学校の意味疎通をうまく行って欲しい。

○委員（黒川 優子）

10 年以上前からある学校評議員の立ち位置に PTA がなりたかったのではないかな。実動部隊よりも校長との話し合いを持つことで、学校が何を目指しているかを知ることができるのではないかな。PTA は文化祭、運動会の手伝いだけになってしまい何の

ためにいるのかということになってしまう。手伝いだけの関係にならないように校長がどう学校と PTA を全体で考えてくれるかだと思う。

○委員（中野 信男）

学校と意思疎通が出来ていれば手伝いもいくらでもできるが、押し付けられて嫌々ということが続いている。

○教育長（仲野 孝）

PTA の組織は保護者と学校と生徒という意味であり、色々な意味で、学校活動を支援してもらったり、協力してもらわなければならない。学校で出来ないことを手伝ってもらっただけというニュアンスだと意味が違ってくる。例えば学校で問題が起きた時に一方的に決定するのではなく、役員を含めて意見交換をして、学校の考え方を示しつつ、保護者にも協力してもらおうのが今のスタンスになっている。学校評議員は開かれた学校づくりを目指すため、地域の意見を取り入れようということから多様な方々を 5 名程度選び、学校がやっていることに対して意見をもらうといった校長の学校運営に対してコメントをもらったりしており、何か学校行事に対して応援をしてもらったりするものではない。位置づけは PTA の役員よりも学校評議員の方が上になる。校長が PTA の役員に対して常に学校活動に協力してもらっているというスタンスをきちんと伝えていくよう校長会で伝えていきたい。

○委員（齋藤 和夫）

今の問題について、昔は PTA の役員から学校運営を助けてもらうことがたくさんあった。最近の文部科学省は PTA を任意団体としているが、PTA は学校と地域を繋ぐ非常に重要な役割を果たしている。今は異動等で地元の教員が少ない。地元と学校を繋ぐ非常に重要なパイプの役割を果たし、地域との軋轢で学校が困っているときに、それを緩和する役割をしていた。学区あげての行事になると学校の教員だけでは地域が動かない。特に農村部は子どもがいなくても学校を支援してくれる。問題が起きたとき PTA は学校教育において必要不可欠だと思う。学校と PTA を綿密に繋ぐとその地域は非常にうまくいく。PTA には学校とのパイプ役と思って頑張ってもらいたい。

○主幹（長谷川 智）

現在の学校と PTA をとりまく環境は良くなっていて、PTA 活動なくして学校は動かない状況である。会長以下役員に助けられ、決して下請の状況ではない。会議についても校長が出席しないことはなく、実務会議には担当者が出席するが、長がつく方が出席するときは校長が出席している。今は単独の PTA での活動だけでなく、PTA 役員同士の交流も多くある。

○委員（中野 信男）

役員を選ぶのは永遠の課題だと思う。意義が見いだせれば負担もなんとかやれると思う。

○教育長（仲野 孝）

今後そのような声が出ないように教育委員会としても働きかけをしていきたい。

（2）教育長報告

〈仲野教育長が報告〉

1 はじめに

- 県内の高校で、生徒から集めたお金が金庫から紛失した事故や、講師が交通事故を起こしそのまま現場を立ち去った事故があった。また、県内の中学校では、生徒による暴力も問題となっており、所管する学校で同様の事故が起きないように各校長に注意喚起をした。

2 新潟県都市教育長協議会秋季定期総会(10月18日)

- 新発田市で開催され、会議での国や県に対する要望は以下のとおり。
 - ① 公立学校施設整備費の予算確保について
 - ② 「学校図書館関係の地方財政措置」の継続について
 - ③ 「地域とともにある学校づくり」のためのコミュニティ・スクールの推進について
 - ④ 学習指導要領改訂に伴う必要な教員定数の充実・基礎定数化について
 - ⑤ 小中学校におけるパソコン等情報機器導入に係る補助金について
 - ⑥ 校務支援システムの県内統一化について
 - ⑦ 特別支援学校への事務員配置増を求める要望書について
 - ⑧ 特別支援教育就学奨励費等の拡充を求める要望書について
 - ⑨ 医療的ケアを行う看護師等の確保について
- また、小中学校普通教室及び特別教室における冷房設備の設置に係る取組状況について協議するとともに、デジタル教科書を使用するにあたり環境整備の状況について情報交換が行われた。
- 県教育庁の義務教育課や総務課、財務課などの担当職員が質問に回答した。特に、多忙化解消アクションプランに基づき、教員の勤務時間の管理を適切に行うための「出退校簿」が12月1日より導入されるとのこと。

3 小中学校長との面談(10月17日～10月21日まで)

- 上半期を終え、学校経営や学校管理などに対する進捗状況を確認するため、

今年 2 回目の校長面談を実施した。

- 校長からは、自己申告シートや学力向上対策シートについての説明と、多忙化解消に向けた校務支援システムの活用状況などについて聞き取りをした。校務支援システムを効果的に使い積極的に業務軽減を図っている学校もあった。
- 学力向上に向けては、全国学力・学習状況調査やNRTなどの結果の分析をもとに、力を付けるべき学習内容は早急に対応するようお願いした。
- 概ね順調に学校の管理や運営が行われている一方、不登校や特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応が引き続き必要である。

4 地区小中学校 PTA 交流会(燕：9月30日、分水：10月6日、吉田：10月27日)

- 年に1度、各地区PTAの役員の方々との交流会がある。どの地区の役員も一生懸命に学校の教育活動に協力していただいております、感謝したい。
- 情報交換では、市教委からは燕市の学びの連続性や地元高校の特色化に向けた動き、全国学力・学習状況調査結果について説明した。
- PTAからはエアコンや洋式トイレの設置計画、小中学校の統廃合に対する方針などについて質問があり回答した。

5 10月の行事予定から

(1) 羽ばたけつばくろ応援事業「糸半プロジェクト」(10月1日)

- 燕地区第1まちづくり協議会主催の防災訓練が、小池中学校、小池小学校、大関小学校を避難所として行われ、参加者は1,338名であった。
- 地域住民はもちろん、小中学校でも防災教育の授業として、原則全児童生徒が参加した。小池中学校では、防災をテーマに地域貢献を行うこととしており、防災マップの作成や避難誘導補助、支援物資の搬入などを体験した。

(2) 長善館史料館筑波大学連携事業(10月4日)

- 平成25年度から筑波大学との連携により、同大学の人文学類の授業「日本史実習」の中で実施されている。
- 大学教授の指導のもと、学生らが中心となり長善館史料館所蔵資料の調査・整理を行い、最終年度の本年度は目録刊行本の完成を目指している。
- 4日から6日まで大学教授やOB、大学院生や学生が25人で作業した。

(3) Good job つばめ推進事業における職場体験発表会(10月14日)

- 小池中学校での発表会を視察した。2年生の発表を1年生も聞くことができるよう配慮したもので、自分が学んだことなどを発表していた。

(4) 市展(10月16日)

- 今年は131人の方から148点の作品応募があり、そのレベルの高さを感じ

た。

(5) ミズノビクトリークリニック(10月15、16日)

- ロンドンオリンピックの100m背泳ぎと400mメドレーリレーで銅メダルに輝いた、ミズノスイムチーム所属の寺川綾さんが来燕した。
- 15日はビジョンよしだのプールで実演を交えた水泳のクリニックをおよそ2時間実施した。また、16日は燕中学校で「学習と部活動の両立(文武両道)」と題して1時間程度の講演会を実施するとともに、効果的なストレッチなども教わった。

(6) 燕市立保育園の民営化に係る運営事業者説明会(10月27日)

- 吉田西太田保育園とつぼみ保育園の民営化に向けた運営事業者の募集要項を10月6日から公表し、昨日の説明会には2法人から参加があった。
- 運営事業者の応募期間は、11月21(月)から12月2日(金)までである。

6 その他

- 11月12日(土)の午後から、分水小学校創立50周年式典が開催され、来賓として市長とともに教育長と山崎教育委員が出席する予定である。

4 専決処分の報告について

報告第10号 共催・後援の教育長専決報告

4件の共催・後援について

〈堀学校教育課長が報告〉

5 協議題

協議第6号 新規共催・後援申請について

1件の新規共催・後援について

〈堀学校教育課長が説明〉

6 閉 会 午後2時40分

教 育 長 仲野 孝

会議録署名委員 秦 久美子

会議録調整者 竹田 亮子
